



北海道ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 豊嶋 崇徳

北海道大学大学院 医学研究科・血液内科学分野 教授

研究要旨

北海道ブロック内の患者動向や各拠点病院の診療実績、活動状況を分析した。また、北海道ブロック内でHIV診療に関する研修会を開催し、各職種における知識および診療水準の向上を図った。本年度の北海道ブロック内の新規HIV感染者数は、過去2番目に多く、AIDS発症者数は過去最多であった。研修会に関しては、これまでおこなってきたブロック拠点病院での研修会や出張研修を継続し、本年度は北海道内の26施設での出張研修を行った。また歯科・透析・福祉サービスの各ネットワーク拡大に向けた取り組みを行った。さらにブロック拠点病院内の各部署の連携を図るために、北海道大学病院に「HIV診療支援センター」を設置した。次年度以降もこれらの活動を継続するとともに、HIV診療水準のさらなる向上のために医療体制の整備を進めていく予定である。

A. 研究目的

北海道ブロックのHIV感染症の診療水準の向上およびHIV感染者の受け入れ施設の拡大を目的とした。

（倫理面への配慮）

アンケート調査や研修会でのデータ解析、症例呈示においては、患者個人が特定されない等の配慮を行った。

B. 研究方法

北海道ブロック内の拠点病院へアンケート調査を行い、患者動向、診療実績、活動状況を分析した。また、ブロック拠点病院に中核拠点病院を加えた体制でHIV診療に関する研修会を開催し、各職種における診療水準の向上を図った。なお、これらの調査及び研修会の一部は、北海道との共同で行った。さらに、院内における出前研修や院外へ出向く出張研修を通して北海道におけるHIV感染症の診療水準の向上を図った。出張研修では、研修前後にHIV診療に関するアンケート調査を行い、研修の効果を評価した。また、受け入れ施設拡大を目的とした各診療ネットワーク（歯科・透析・福祉サービス）の充実を図った。さらに、ブロック拠点病院内の各部署の連携を図るために、「HIV診療支援センター」を設置した。

C. 研究結果

1. 北海道ブロックの患者動向

平成28年12月末現在の北海道ブロックにおける新規のHIV/AIDS患者数を図1に示した。新規のHIV感染者は23名、AIDS発症者は19名、計42名であった。

2. 北海道ブロック拠点病院および北海道大学病院の診療実績と活動状況

北海道の各拠点病院のHIV/AIDS患者の診療状況を表1に示した。現在患者がいない施設が4施設あったが、これまでHIV/AIDS患者の診療経験が全くない施設は1施設のみであった。地域別患者数は、これまで同様、道央圏、特にブロック拠点病院に集中していた。

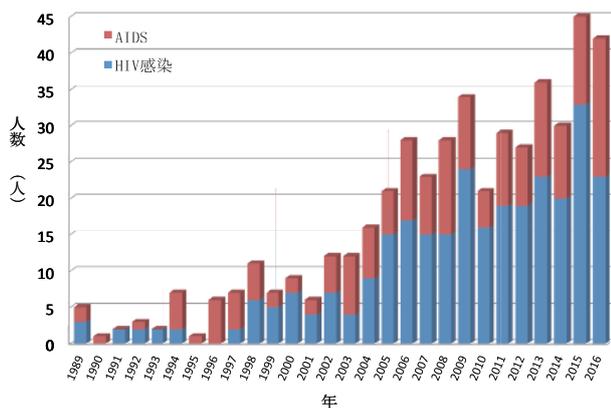


図1 北海道におけるHIV・AIDSの新規患者数

北海道大学病院の活動状況としては、後述する北海道ブロックの研修会を主催または各地域の研修会の支援を行った。

3. 北海道ブロック内の研修会等の開催状況

【北海道ブロック内研修会の開催】

- 平成28年度北海道HIV/AIDS医療者研修会、札幌、2016年6月11日
- 道東地区研修会、釧路、2016年5月28日
- 道央地区研修会、札幌、2016年9月29日
- 道央・道南地区研修会、函館、2016年11月4日
- 道北・オホーツク地区研修会、旭川、2016年11月12日
- 北海道エイズ治療拠点病院看護師研修会、札幌、2016年10月29日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（カウンセラー）、札幌、2016年10月29日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（MSW）、札幌、2016年10月8日
- 北海道HIV/AIDS歯科医療研修会
北見、2016年8月7日
札幌、2017年2月18日

【北海道大学病院内研修会】

- 北海道大学病院HIV学習会
第19回：2016年5月27日
第20回：2016年9月13日
- 院内出前研修
内科、眼科

【北海道大学病院 出張研修（図2）】

- 札幌市内：13施設
- 札幌市外：13施設

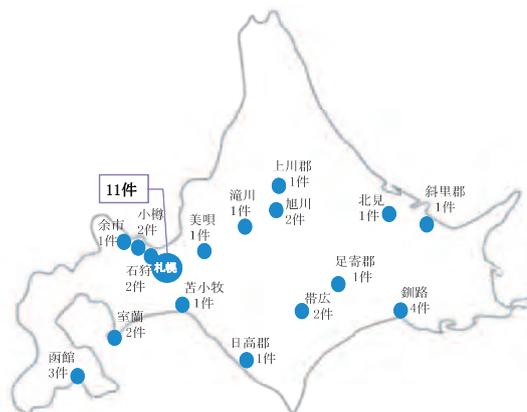
表1 北海道ブロックの拠点病院別患者数

	16/15/14 (年数)	累計	現在数		16/15/14 (年数)	累計	現在数
北海道大学病院	16/40/30	393	266	【道北・オホーツク地区】			
				旭川医科大学	1/2/1	33	21
				旭川医療センター	0/0/1	3	0
				市立旭川病院	0/0/1	11	9
【道央・道南地区】				旭川赤十字病院	0/1/0	2	0
札幌医科大学	7/10/4	96	66	旭川厚生病院	0/1/1	3	3
市立札幌病院	3/4/1	27	24	北見赤十字病院	2/0/1	12	4
北海道がんセンター	0/0/0	4	2	広域紋別病院	0/2/1	3	3
北海道医療センター	0/0/0	6	0	【道東地区】			
市立小樽病院	0/0/0	5	2	釧路労災病院	2/6/1	37	29
市立函館病院	1/1/0	25	13	市立釧路病院	0/0/0	4	3
道立江差病院	0/0/0	0	0	釧路赤十字病院	0/1/1	3	3
				帯広厚生病院	3/1/2	34	19

2016年9月末現在



図2 平成28年度 北海道大学病院 出張研修



●登録施設 37施設（平成28年12月現在）

*うち13施設で出張研修を施行

図3 北海道HIV透析ネットワーク

【北海道HIVネットワーク参加状況】

- 北海道HIV歯科ネットワーク：41施設
- 北海道HIV透析ネットワーク：37施設（図3）
- 北海道HIV福祉サービスネットワーク：407施設（図4）

サービス種別	件数
高齢者領域	
訪問系サービス	121件
通所系サービス	23件
短期入所サービス	6件
小規模多機能型居宅介護サービス・複合型サービス	7件
福祉用具貸与（レンタル）、福祉用具購入、住宅改修	3件
入所・居住系サービス	30件
サービス利用支援（居宅介護支援、介護予防支援）	74件
障がい者領域	
訪問系サービス	25件
日中活動系サービス	31件
入所・居住系サービス	7件
保険外サービス、独自事業、その他	
保険外サービス・独自事業	74件
その他	6件

図4 北海道HIV福祉サービスネットワーク登録施設

4. 北海道大学病院HIV診療支援センターの設置

北海道大学病院では、院内のHIV診療関連部署の連携により集学的治療をおこなうために、2016年7月1日にHIV診療支援センターを設置した。センターに所属している部署を図5に示す。

D. 考察

平成28年の北海道ブロックの新規患者は、過去最多であった昨年の45名について2番目に多く、新規エイズ発症者も19名と過去最多であった。これらの結果から、北海道ではHIV感染者の早期発見がいまだ不十分と考えられる。今後、一般医療施設への啓発活動をさらに充実させていく必要があると考えられた。

北海道大学病院でおこなっている出張研修は、HIVの検査啓発と、受け入れ施設の拡大を目的として行っているが、これまで出張研修を行った施設から、平成27年は10名、平成28年は8名、それ以前を含め総計で28名のHIV感染者が新規にみつかり、出張研修はHIV感染者の早期発見に対して大きな効果が得られていると考えられた。また、研修前後のアンケートにおいて図6に示すとおり、研修後にHIV感染者の受け入れに対して肯定的な回答が増加していた。実際に、出張研修後にHIV患者の受け入れに至った施設が徐々に増えてきていることから、本研修が患者の受け入れに対する意識の改革に大きな役割を果たしていると考えられた。

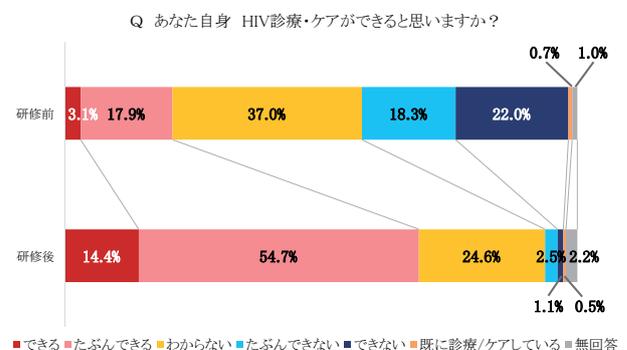
北海道では、歯科・透析・福祉サービスの各ネットワークを構築しているがHIV福祉サービスネットワークへの登録依頼文書を行政から987件の社会福

祉法人に配布したところ、文書配布から2週間以内に17件の社会福祉法人、87件の福祉事業所からの登録が得られた。このことから、HIV診療施設の拡大において行政との連携がきわめて効果的と考えられた。

HIV感染症患者の高齢化が進んでいることから、様々な合併症をもつ患者が多くなっており、多くの部署が連携して診療にあたる必要があると考えられたため、本年度北海道大学病院内にHIV診療支援センターを設置した。HIV診療支援センターには、HIV診療科のみならず、糖尿病内科、腎臓内科、肝臓内科、整形外科など、慢性合併症に関与する部署を多く含めた。HIV診療支援センターを設置して各部署の担当者を決めたことにより、HIV診療に関する相談窓口が明確となったため、様々な相談をスムーズにおこなえるようになり連携がより強化されたと考えられる。



図5 北海道大学病院HIV診療支援センター



期間：平成28年5月～平成28年12月まで

図6 出張研修前後のアンケート調査

E. 結論

北海道ブロックにおけるHIV診療水準向上のため、出張研修を含む研修会や診療ネットワークを通じて、一定の成果が得られたと考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 総説論文

- 1) 遠藤知之:「医療現場における曝露後予防」、エイズの臨床 アップデート、アレルギー・免疫、医薬ジャーナル社、23 (5): 90-95, 2016

2. 学会発表

- 1) 遠藤知之:「当院におけるHIV/HCV重複感染症治療の現状と困難症例」第4回Japan HIV-hepatitis Study Group講演会、東京、2016年7月3日
- 2) 遠藤知之:「HIV感染症の基礎と最近の話題」第7回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議、岡山、2016年11月6日
- 3) 遠藤知之、宮下直洋、笠原耕平、小杉瑞葉、岡田耕平、白鳥聡一、後藤秀樹、杉田純一、小野澤真弘、橋本大吾、加畑馨、藤本勝也、近藤健、橋野聡、豊嶋崇徳: HIV感染症合併血友病患者に対するMRIによる脳スクリーニングの意義 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月24日-26日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし